

視 察 日 時	令和6年5月22日（水）9時30分 ～ 11時
視 察 先	沖縄県うるま市（説明：企画部プロジェクト推進2課）
視 察 項 目	石川地域「まちづくり推進計画」について
視 察 概 要	（1）石川地域「まちづくり推進計画」策定の経緯 うるま市は、平成17年4月に具志川市・石川市・勝連町・与那城町の4市町が合併して誕生した。 令和5年3月に、市の北部に位置する石川地域について、将来像やまちづくりの基本方針を明確化するとともに、これまでの計画・事業を整理し、新たな取組も加えて複数のプロジェクトとして取りまとめて、その実現方策や優先順位を示すことで、住民の理解や協働によるまちづくり、事業者の参画や投資の促進を図り、実効性のあるまちづくりにつなげることを目的に推進計画が作成された。 （2）まちづくり推進計画の特徴と概要 計画では、旧石川市である石川地域の活性化を目的に、短期でやるべきもの、中期でやるべきもの、長期でやるべきものそれぞれに分類した7つのプロジェクトにまとめている。 短期的には、①石川 IC 周辺の交流拠点形成と②石川庁舎周辺の活用推進。中期として③石川市民の森公園のリニューアルと④「子育て・福祉」複合施設の整備。長期的なものとして⑤国道329号沿道の新たな土地利用、⑥（仮称）うるま IC の整備推進及び新たな産業誘致の検討、⑦東恩納周辺の新たな土地利用を、各プロジェクトとして掲げている。 計画の中で、石川地域の目指す姿としてのテーマに「中南部と北部をつなぐゲートウェイとして多くの人が訪れ暮らす賑わいのあるまち」を掲げ、以下の3つの基本方針を据えている。 ① 域内外の人が集う賑わい交流空間の形成 ② 新しい時代にマッチした産業の振興や創出 ③ 住み続けたいと思える居住環境と産業振興が調和するまちづくり [質疑応答] Q. 人口が増えているが、効果があった政策は？ A. 細かい分析はできていないが、結果として増えているということで、今後詳しい検証をしていきたいと考えている。10 年前に比べてうるま市全体で、5,000 人の人口が増えているが、そのうち石川地域で 3,000 人増えている。うるま市の中で今後も人口増加が見込めるのは石川地域

	だと考えている。 Q. 2市2町が合併してうるま市になったとのことだが、新市の中心的地域は石川地域になるのか？ A. 石川地域が中心的地域になるのだが、合併してから地域づくりが進んでいないという声があったことから、これまでの政策・事業を見直して目に見える形でまちづくりを推進しようということで今回の計画になった。 Q. 石川地域が通過点になっている現状だとの説明があったが、高速の開通により、そうなったのか？ A. もともと沖縄の中心的地域であったものが、高速の開通により中心的な行政基盤が那覇に移っていったこともあり、通過されているのが現状である。 Q. I C周辺に道の駅の整備を進める計画もあるが、どのくらいの入り込み客数と売り上げを想定しているのか？ A. 現在、農林水産物の直売施設として、うるマルシェという施設があるが、年間で100万人超の入り込み客数があり、売上金額も10億円を超えているので、新しい道の駅でも同等の入り込み客数と売り上げを見込んでいる。 Q. 人口2万ほどの石川地域でそこまでの客数と売り上げを達成するのは、かなり大変ではないかと思うが、数字の根拠は？ A. 一般的には30分圏内で、30万から40万人の圏域があれば商業的に成立すると言われているが、石川地域の場合、30分圏内に115万人ほどの人口があるので、十分に可能と考えている。
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	まちづくり推進計画の内容が将来像をしっかりと設定して、短期・中期・長期それぞれに取り組むべきプロジェクトを掲げている点が特に参考になる。また計画の推進手法も官民連携でという方針であり、これからの行政運営に必要な要素をしっかりと取り入れた計画になっていると感じた。 当市でも、日沿道の県境 I C 周辺への新しい道の駅の整備事業を進めていることもあり、同様に I C 周辺への道の駅の整備計画には大いに興味があり、質問もさせていただいたが、ターゲットをどこに設定するかをしっかりと見極めて計画を進めている点は参考になった。入り込み客数と売上金額の根拠の一つとされた、近くで現在運営している産直施設（うるマルシェ）も見学させてもらったが、ディスプレイや品揃え、商品の陳列の仕方等、多いに参考となった。